

令和4年度 第3回 授業研究の記録 国語科分科会

研究主題

学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える

～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

分科会提案

現在の児童の姿 「児童・生徒の学力向上を図る調査」の分析より
以下の6点について、本単元で重点的に改善を行う。

4 学習の進め方（教科共通）
6 学習の進め方（国語＜話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと＞）
について、一番近いと思うものを選んでください。

■ 思う ■ やや思う ■ やや思わない ■ 思わない

4(9)他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている。	26.1	39.1	26.1	8.7
4(11)自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。	30.4	39.1	21.7	8.7
6(2)他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。	17.4	47.8	26.1	8.7
6(4)他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。	34.8	30.4	21.7	13
6(6)文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。	21.7	39.1	30.4	8.7

自らの力で粘り強く課題解決に取り組むための基礎的・基本的な学習方法が身に付いていない。

異なる考えや意見を参考にして自分の考えを見直そうとしているが、自分の考えを深め再構築することができない。

考えを交流し、自身の考えを言葉で説明しようとはしているが、文を別の言葉で言い換えたり、短くまとめたりすることができない。

教材に興味をもたせるために、図画工作科との関連を図り、自分の考えをもって課題に取り組むことができるようにする。

4-（11）6-（4）の改善

単元の導入の際に、学習の見通しをもたせ、「何を目的に」「そのためにどんな力が必要なのか」を明確にして、毎回の授業で確認ができるようにする。

4-（9）6-（2）の改善

要約を書くために中心となる語や文をみつけるために、写真や絵図などと文章を照らし合わせたり、モデル文を示したりしながら段階的に学習を進める。

6-（6）の改善



目指す児童像

課題を正しく捉え、適切に解決することができる。

友達の考えを基に、自分の考えを見直し、よりよい考えを構築することができる。

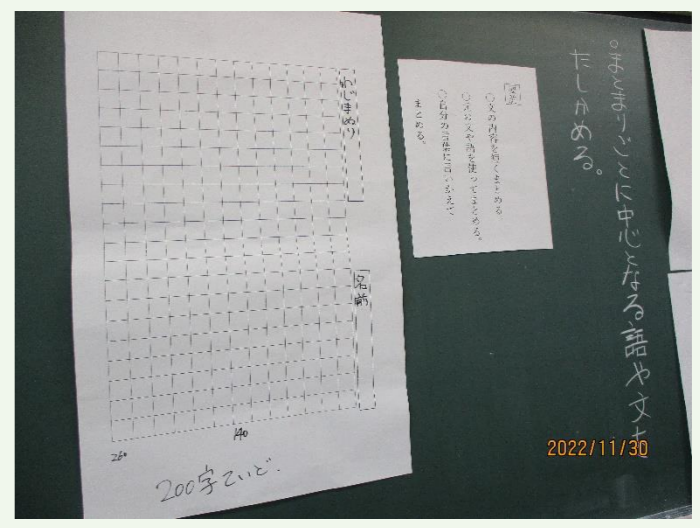
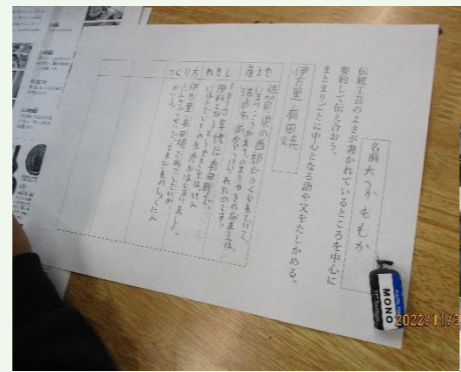
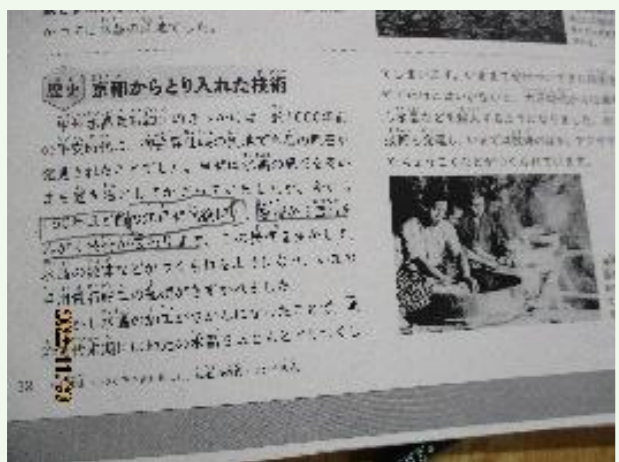
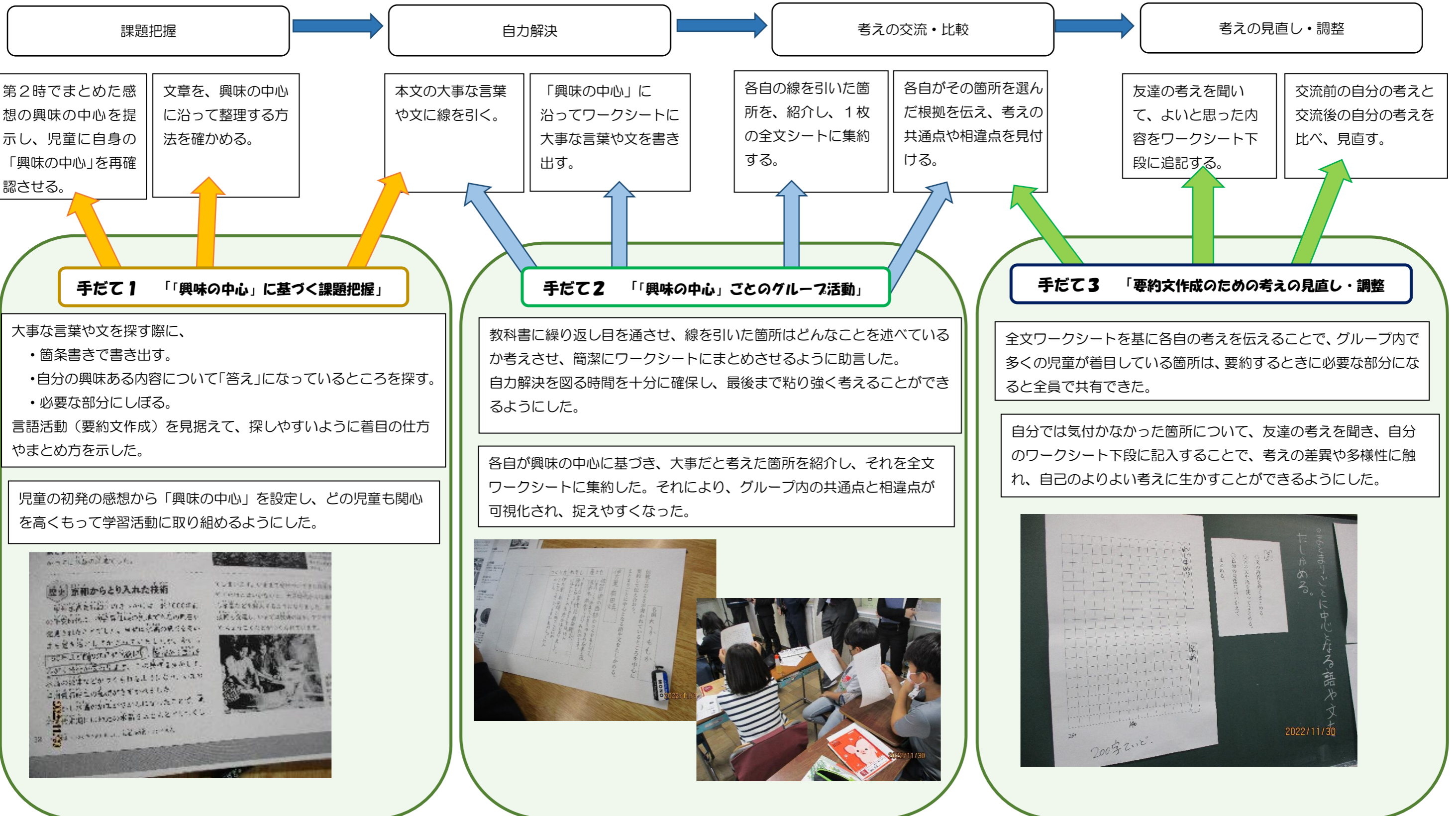
自分の考えを相手に正しく伝えるための要点のまとめ方を理解している。

1 単元名 中心となる語や文を見付けて要約し、調べたことを書こう 教材名 「世界にほこる和紙」(国語・四下 光村図書)






2 単元の目標

- (1) 事典の使い方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕(2) イ
- (2) 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。〔知識及び技能〕(3) オ
- (3) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし、書き方を工夫することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕B(1) ウ
- (4) 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C(1) ウ
- (5) 言葉や文がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本時の流れ



児童に見られた様子

手だて1 教科横断的な学習の展開	手だて2 学習活動の工夫	手だて3 考えを説明する機会の充実
<p>伝統工芸に興味をもたせるために、図画工作科において実際に和紙作りを体験したり、具体物に触れたりする活動を取り入れた。夢中になって和紙作りに取り組んでいた。図画工作科の題材と関連を図ることで、自分の選んだ伝統工芸についての文に関心をもちやすくなっていた。</p>  	<p>導入の際に、学習のゴール地点の段階を絵で示し、児童と学習計画を立てた。学習の第一段階として、「世界にほこる和紙」を教材として、文章全体の要約をする学習に向かわせ、第二段階を並行読書による自分で選んだ題材の説明文を書くことを見通しながら学習を進めていた。</p> 	<p>よさや特徴などのキーワードに線を引きながら、自力で読み取る時間を十分確保したことで、自分の考えを他者に伝えることができた。</p> <p>また、既習事項である、要点の捉え方を十分復習し、中心となる語や文への着目を促したため、読み取りがスムーズに行えた。</p> <p>ワークシートに各自が読み取ったことを要約し、他者と伝えあうことができた。自分の考えを見直し、隣同士で意見を確認する姿が見られた。</p>  

成果

資料の「段落」「冒頭」「末尾」に注目して抜粋している様子から、中心となる語や文の着目は捉えていたといえる。

要約の方法を確認することができており、全員が課題に取り組むことができていた。また、中心になる内容を見つけることに対して苦手意識をもっている児童に個別指導が的確に行えた。

交流の際に、ワークシートが書き終わっていなくても、自分で言葉を補って友達に説明することができていた。

要約する観点が明確化されていて分かりやすかった。

課題

既習事項である要約の仕方の確認をもう少し丁寧に行う方法を考える。前時までの要約文などの書き方の見通しを持てる掲示がもう少しあるとよい。

読みの観点を与えたことで、伝統工芸のよさについて捉え、要約することに意識が向けられなくなっていた児童もいた。本時のめあてを貫くために、中心となる語や文により着目させる必要があった。

各々の児童が書いた文章を「こういった意図でその要約文になったのか」を説明するようにさせ、「読み合い」の活動の価値を大事にしたい。伝え合っただけで終わってしまわないように留意し、伝えあった後、文章を改善する時間を十分設定し、話し合いを生かす活動を増やす。